

## 自然の営み

a2200502 飯塚涼子

### 【制作意図】

皆さんは自然の中で遊んだという経験、思い出がありますか？最近では大人も子供も自然に触れる機会が少なくなったように感じます。

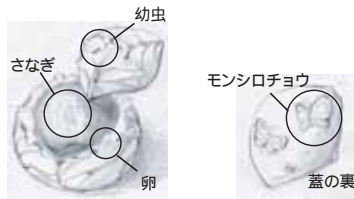
私は小さい頃から自然が好きで、昆虫や虫たちにも興味があり図鑑などよく眺めていました。また、実家では雑木林や田畑、沼が近くにあったため、実際に昆虫を探しに遊びに行きました。カブトムシ、カマキリ、蝶など直接見て触れることで、図鑑だけでは分からなかった昆虫たちの姿を知ることが出来て楽しい時間を過ごしました。

自然には楽しさや驚き、感動など、人を引きつける魅力が隠されています。あまり遊んだことがない、子供の頃は遊んだけど今は・・・という人にもう一度自然について考え、目を向けて欲しいと思い、モンシロチョウの成長していく過程が感じられる作品を制作しようと思いました。

### 【デザイン】

キャベツを丸々一個作る。ただのキャベツではなく箱としても使用可能にする。

葉っぱに卵と幼虫をつける。さなぎはキャベツ(箱)の内側、モンシロチョウは蓋の裏に飛んでいる様子を表現する。



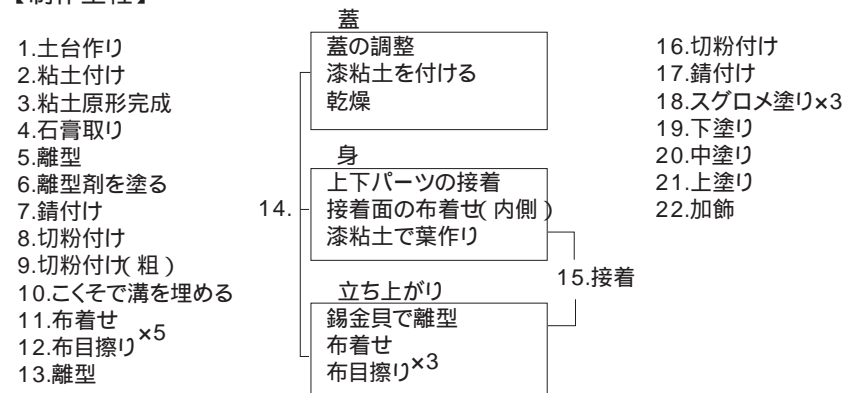
### 【制作方法】

「乾漆」粘土原形を作り、その上から石膏を流して型を取る。その後一定の厚みになるまで漆と麻布を貼り重ねる。

中が空洞になることから、この特徴を活かし、キャベツを箱物にして用途性を持たせた。



### 【制作工程】



### 【考察・感想】

制作にあたり、細かな作業の連続で苦労しました。キャベツ制作で乾漆という技法を用いましたが、乾漆は粘土原形の時点で形がしっかり出来ていないと後々の作業に影響が出てきます。そのためキャベツの特徴を表す芯や丸みなどは、石膏取りの前にバランスを見ながら何度も作り直しました。石膏を取った後も、雌型(内貼り)に布を貼る際は、布が浮かないよう慎重に貼らないといけないので、雄型(外貼り)より大変でした。

次にキャベツの葉の先端ですが、乾漆では無理があったので漆粘土を使用しました。自由に形態を作れるため、ひらひらとした葉の感じを出すことが出来ましたが、手触りがもさもさしていて作るのに苦戦しました。また、初めての使用だったので、乾き具合や強度なども心配しましたが、2、3日もたてば乾き、思ったよりも丈夫だったため、漆粘土は期待以上のものでした。

時間と手間がかかる作業ばかりで大変な思いもしましたが、だんだんと仕上がってくる作品を見るたびに嬉しかったです。また、細かい作業が好きな私にとっては楽しい時間でもあり、充実した毎日でした。